



■第2回拡大授業研究会から

中学部 1・3 学年 2 組 国語科

「いもいも ほりほり」

【題材について】

○題材目標

- ・物語に登場する物や人物とのやり取りを通して様々な言葉に触れ、言葉の響きやリズムに親しむ。【知】
- ・物語が進行していく中で、視覚や聴覚等の五感を通して感じ取ったことを、表情や発声、体の動き等で表現する。【思】
- ・絵本「いもいもほりほり」に興味・関心をもち、挿絵を注視したり読み聞かせに聞き入ったりする。【学】

○国語科の段階や指導内容

- ・小 1 段階 イ：我が国の言語文化
- 【知】(ア) 昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと。
- 【思】(ア) 教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすること。

○題材等の概要

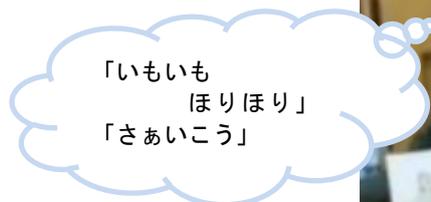
- ・生徒個々の自立活動の目標を基にした活動内容を設定する。
- ・授業内容及び手立ての工夫 (ICT の活用 例：iOAK、ロイロノート)
- ・学習評価の工夫 (映像や画像の工夫)

【生徒に期待する姿 (日常生活全般において)】

- ・音の響きが分かる姿 (ありがとう、いいよ 等)
- ・表情が豊かになる姿
- ・体の動きで挨拶に応える姿

【授業研究会から】

- ・本時の目標：物語を見聞きする中で、視覚や聴覚等の五感で感じ取ったことを表情の変化や体の動きで伝える。
- ・見取りの場面：「いもいもほりほり」「さあいこう」というセリフを聞いて、表情を変化させたり、目や口を動かしたりする場面。
- ・焦点：せりふを聞いた際に見せた生徒の反応と解釈→**授業改善のアイデアを提案**



ラベルコミュニケーション (事実)

- ・「いっしょにいこう」「ありがとう」等のせりふに合わせて、大きく口を開ける、笑顔になる、手を挙げる等の動き、反応があったという見取りが多く挙げられた。

アクティブリスニング (解釈)

- ・話の中の言葉やせりふが分かり、教師の言葉掛けがせりふを話すタイミングであることを理解したのではないかと、という解釈が多く挙げられた。

授業者の見解と改善の方向性

- ・取り上げるせりふの長さにより表出の違いが見られること、生徒の思いの大きさの違いが表出や反応の大きさの違いに表れる。それらを汲み取り、代弁したい。
- **反応を引き出しやすい言葉の精選**
- ・ **1 単位時間内の活動内容の絞り込み**
- ・ **早めの予告等の働き掛け方の工夫**

【指導助言】 秋田大学大学院教育学研究科 教授 藤井慶博先生

一人一人の反応や感じ方を丁寧に見取り、即時的に支援へつなげる教師の姿勢が見られた。音・映像・匂い・触覚など多様な感覚を活用し、経験や概念の枠組みを少しずつ広げようとする多様なアプローチが有効だった。表情や声、微細な体の動きを手掛かりとした形成的評価を授業中絶えず行い、その評価に基づく弾力的な対応がきめ細やかだった。見取りについては、事実と解釈の区別が重要である一方、反応の要因を過度に実験的に切り分けることにとらわれ過ぎず、教師同士が対話を通して見取りを共有し、間主観的に理解を深めていくことが重要と考える。ICT 機器 (iOAK) の活用については、音声のカスタマイズ等による没入感の強まりや反応の解釈 (閾値設定) の整理が進むことでのブラッシュアップを期待する。今後の検討点として、場面転換の工夫、没入感の向上、生徒主体の振り返り、非認知能力に着目したアウトカム評価が挙げられる。授業の学びが今後の生活や「生きる力」にどのようにつながっていくのかを見取り、授業後の姿や別の場面での反応も含めて捉えていく視点が重要である。

題材を通して 評価

「ありがとう」「いこう」等の言葉や響きに、自発的な表出が見られた。毎回、読み聞かせを行ったことで、集中して聞く力を身に付けることにつながった。日常生活の中で、お礼を言う場面や依頼をする場面に発声したり、体を動かしたりする姿が見られた。新しい言葉やオノマトペに興味を示し、表情を変えて聞き入る姿が見られた。